

支部活動紹介

2023 年度経営情報学会九州・沖縄支部 & ソーシャル・データサイエンス研究部会合同研究発表会の開催報告

九州・沖縄支部 副支部長 四本雅人（よつもと まさと）
長崎県立大学経営学部

1. はじめに

経営情報学会九州・沖縄支部と組織ディスコース研究部会の合同研究発表会が2024年3月16日（土）に福岡の西南学院大学で開催されました。2022年度は、経営情報学会の組織ディスコース研究部会に声を掛け、合同研究発表会を開催しましたが、2023年度は同年度の4月に新たに設立されたソーシャル・データサイエンス研究部会との合同研究発表会を開催しました。私がソーシャル・データサイエンス研究部会に参加させてもらっており、同研究部会・主査の小川美香子先生、幹事の白井康之先生に九州・沖縄支部との合同研究発表会のお声掛けをしたところ、快諾していただきました。

2. 合同研究発表会

合同研究発表会の当日には、全国から17名のご参加がありました。また、本学会の田名部元成会長、森田裕之副会長、総務担当理事・松下倫子先生



写真1 合同研究発表会の様子（以下、写真撮影は広報担当理事の中村暁子先生）

が九州・沖縄支部を盛り上げようと応援に来てくださいました。ありがとうございました（森田先生は第3報告の共同発表者、松下先生は第1報告のコメントータをされていました）。

今回の経営情報学会九州・沖縄支部とソーシャル・データサイエンス研究部会の合同研究発表会では、以下の研究報告が行われました。

第1報告「実践主導アプローチによる情報システム構築に向けた試案：A医療センター医療福祉相談室との協働を通じて」

報告者：前田 瞬（長崎県立大学）・梅野潤子（長崎国際大学）

コメントータ：松下倫子（関東学院大学）



写真2 第1報告の前田瞬先生

第2報告「ダイバーシティ経営に優れた日本企業284社の特性分析：自然言語処理モデルBERTによるテキストマイニング」

報告者：牛丸 元（明治大学）・四本雅人（長崎県立大学）

コメントータ：清宮 徹（西南学院大学）



写真3 第2報告の牛丸元先生



写真5 第4報告の小川美香子先生

第3報告 「不明を含むアンケートデータの信頼性評価に基づく集計方法の提案」

報告者：白井康之（大東文化大学）・森田裕之（大阪公立大学）

コメンテータ：後藤裕介（芝浦工業大学）



写真4 第3報告の白井康之先生

第4報告 「食品安全文化と従業員のウェルビーイングに関する評価の試み」

報告者：小川美香子（東京海洋大学）

コメンテータ：四本雅人（長崎県立大学）

第1報告の前田先生（長崎県立大学）と梅野先生（長崎国際大学）の研究報告では、医療機関において、本来、患者が利用できる福祉制度が十分に活用できていないことに鑑み、医師や医療ソーシャルワーカーを通じた情報提供の仕組みや制度利用の支援の仕組みを構築することで、医療の質やソーシャルワークの質を高めることができるとし、対人援助専門職が利用可能な意思決定支援システム（DSS: Decision Support Systems）の構築が問題意識として出されていました。研究では、A医療センター医療相談福祉相談室において、訪問調査が行われ、“望ましい”情報システムの構築に向けた、実践主導アプローチとシステム構築のための土壌整備が考察されていました。

第2報告の牛丸先生（明治大学）と四本（長崎県立大学）の研究報告では、人材のダイバーシティをイノベーションに変換するには、包摂的な職場風土を形成することが必要であるものの、それがマネジメントシステムのフレームワークに落とし込んで議論したものが少ないことを問題意識としていました。そこで、マネジメント・コントロールにおける4つのコントロールレバーの分析枠組から、日本企業のダイバーシティ経営の特性と包摂風土を形成する要因を明らかにするために、自然言語処理モデルBERTによる分析アプローチが採られていました。分析の結果、ダイバーシティ経営に優れた日本企業は「境界」に力を入れたマネジメントを行っているものの、境界のシステムは包摂風土に対し、マイナスの影響を与えており、日本企業は境界のシステムに注力すればするほど、包摂風土が醸成されにくくなっているとい

うジレンマに陥っているとの結論でした。

第3報告の白井先生（大東文化大学）と森田先生（大阪公立大学）の研究報告では、アンケート回答における Satisfice と呼ばれる「望ましくない」回答に対し、一般的には一定の基準で「望ましくない」回答をフィルタリングするが、その「望ましくない回答」の定義が難しいとし、回答者の信頼度に基づくアンケート回答の重み付け集計方法が提案されていました。信頼度の高い／低い回答者は誰か、信頼度の高い／低い質問項目はどれか、ということに着目し、ダミーデータとの一致度からパラメータを同定するという信頼度に基づく集計方法をご提案されていました。

第4報告の小川先生（東京海洋大学）の研究報告では、一律に衛生管理手順や製造手順、規則を守らせようとするだけでは、食品事故は減らないのではないかという問題意識のもと、食品安全文化に着目され、食品製造事業者を対象に、食品安全文化と食品安全に関する意識や行動の関係、そして、従業員のウェルビーイングと食品安全文化の関係について、調査をされていました。調査から、従業員のウェルビーイングが高く、食品安全文化尺度が高いと食品安全にポジティブな行動をとること、また、食品安全文化の尺度が高いとウェルビーイングも高いということが明らかにされていました。

いずれの研究報告も大変興味深いものばかりで、質疑応答では大変活発にディスカッションが展開されていました。

合同研究発表会終了後は、九州・沖縄支部の総会が開催されまして、2024年度からの藤井資子先生（九州産業大学）の支部長就任と、私こと四本雅人（長崎県立大学）の副支部長就任が承認されました。

九州・沖縄支部の総会終了後は、西南学院大学から徒歩10分ほどの「西陣初喜」に移動し、懇親会を開催しました。博多と言えば、もつ鍋ですが、黒毛和牛もつ鍋の食べ放題・飲み放題のコースを注文しまして、もつ鍋を一生分と言えるくらい堪能しました。美味しかったです。



写真6 博多もつ鍋（懇親会の写真を撮り忘れたので、「博多もつ鍋西陣初喜」の公式サイトより）

3. さいごに

こうして、2023年度経営情報学会九州・沖縄支部とソーシャル・データサイエンス研究部会の合同研究発表会は盛況のうちに幕を閉じることができました。前年度に引き続き、会場を提供していただき、さまざまな手配をしていただいた九州・沖縄支部の前・副支部長の清宮徹先生には感謝申し上げます。また、大変お忙しい中、博多まで応援に来てくださった田名部会長には、合同研究発表会の締めのご挨拶までいただいて、本当にありがとうございました。

2024年度も2月か3月頃に九州・沖縄支部の研究発表会を開催したいと考えております。今回も九州・沖縄支部の会員の方々の参加が少なかったので、次回は多くの方々にご参加いただくと幸いです。次回の研究発表会の詳細が決まりましたら、本学会のメールマガジンにてご案内致します。

そして、2024年度の経営情報学会全国研究発表大会は、11月16日（土）、17日（日）に西南学院大学で開催されます。皆様の九州・福岡へのご来場をお待ちしております。

九州・沖縄支部への問い合わせ先

br.kyushu-okinawa@jasmin.jp